



図書たより

NO. 5

Dec 2014

明治大学中野図書館



図書館員オススメの本

【草野真一『メールはなぜ届くのか：インターネットのしくみがよくわかる』講談社、2014(ブルーバックス B-1825)】



この本は、インターネットってどうなっているんだろう、通信のしくみは?と疑問に思った人が最初に読むのに適した一冊である。説明がとてもていねいであり、専門用語への抵抗をやわらげてくれる。ただ、さらっとした説明の中に「おおっ」ということが隠れていたりする。例えば「ルータ同士は頻繁に通信しあい、ルーティングテーブルを更新しています。どこにデータを送れば最短距離でデータが遅れるか、という情報を交換しあっているのです。」インターネットは多くのネットワークをつないだものだが、あいだで中継する機械を「ルータ」という。

この本を読んだ後は機械がもっと身近になると思う。それにしても結構「扱っているのはデジタル」が強調されていた。ITの原理って変わらないものは変わらない?

【東田直樹『跳びはねる思考 会話のできない自閉症の僕が考えていること』イースト・プレス、2014】



自閉症の人が身近にいないくても、奇声を発したり、跳びはねたりしているところに電車などで遭遇したことがある人は多いだろう。

なぜ自閉症の人はあのような行動をとってしまうのか?

22歳の自閉症者である著者は「まるで壊れたロボットの中に閉じ込められているかのよう」と書いている。自分の意思とは無関係に身体が勝手に動いてしまう。また、記憶が「線ではなく点になって」いるため、楽しかった記憶がよみがえって突然笑いだしたり、逆に恐ろしかった記憶がよみがえって恐怖のあまり叫びだしてしまうそうのだ。意思の疎通が難しい自閉症者はこんな世界を見ているということに驚き、東田さんの知的で感性あふれる文章にさらに驚く一冊である。

【フィルムアート社編『じぶんの学びの見つけ方』フィルムアート社、2014】



宇宙飛行士、翻訳家、料理研究家、学者、建築家・・・様々な分野の第一線で活躍する26人の著者たちが、「じぶんの学び」について語っている。

本書では、学生時代のいわゆる“勉強”と違って、じぶんの働き方、暮らし方、生き方を考えて、それを自らつくりだすことを、<自分の学びを見つけること>と定義している。その言葉通り、ここで紹介されている学びのひとつひとつのエピソードからは、誰かに教えられたものではなく、自分自身で行動し、試行錯誤しながら学び得たものであることが伝わってくる。その一部をご紹介します。<「教えないこと」からの学び>、<「アマチュア」という学び>、<気づきの技術という学び>。26人のエピソードを一気に読み通すと、なかなかずっしりとした読了感だ。あなた自身の「じぶんの学び」を見つけるきっかけにオススメしたい一冊である。

【藤井旭『月と暮らす。 : 月を知り、月のリズムで』 誠文堂新光社 , 2011】



一年のうち、満月は冬がいちばん空高くにかがやく。

この本は、月に関する事象がシンプルにまとめられている。

雲海を昼のように照らす月光、夜空にかかる白い虹、湖上にまっすぐのびる「月の道」…美しい写真とともに、月齢0〜月齢29までを紹介。添えられる月エピソードの切り口は、月現象・神話・文学・絵画・暮らしとの関わり…と実にさまざま。

「月には豊富な資源がある。月はどこの国のものでもない」という“月協定”があるがほとんどの国は批准していない」というヒヤリとするような現実も。

寒いけれど、月や星が皓々とかがやき渡る季節。空を見上げてみよう。

【カレン・ラッセル『狼少女たちの聖ルーシー寮』 河出書房新社 , 2014】



南フロリダを舞台に、奇妙でおかしい、みずみずしい10の短編集が収められている。人間に“更生”するために教育され、人間化していく少女と野性のままの少女に分かれていく狼少女姉妹を描いた表題作「狼少女たちの聖ルーシー寮」、死んだ妹を探しに、毎晩夜の海に漕ぎ出だす兄弟の「オリビヤ探し」、大人が出ていってしまったワニ園で奮闘する「アヴァ、ワニと格闘する」…不思議な設定の話が多く、ページから奇想天外なイメージが次々に飛び出してくる。

しかし、解りにくくはない。家族・兄弟・姉妹の愛情を中心に展開するので、リアリティがあるのだ。出てくる人物は、少年少女も大人も、自分の力ではどうにもならない、ままたらない現実の中で必死に生活している。

どの短編も、奇妙に明るい絶望のなかで、プリミティブなほどの愛や孤独が爆発的に湧き上がってくる瞬間があざやかだ。



図書館からのお知らせ

冬休みの用の本、お早めに！

◆冬季長期貸出

貸出開始日 院生：11月25日（火） 学部生：12月8日（月）
返却期限日 2015年1月14日（水）



◆図書館バッグプレゼントキャンペーン

期間：12月1日（月）～12月22日（月）

対象：学部・大学院の学生、教職員で下記のいずれかに該当する方

1. 図書館ポータルサービスにメール登録している方
2. 図書を1回に2冊以上借り出した方

中野図書館貸出カウンターで「オリジナルバッグを希望します」とお声がけください。

抽くなりしだい
終了です